



『眠れる森の美女』より、上:デジレ王子(レオニード・サラファーノフ)
下:猫(マリーナ・ニコラエフ、ニキータ・クリギン)

2月号の主な記事：ミハイロフスキー・バレエ『眠れる森の美女』

ナチョ・デュアトの新版が、サンクト・ペテルブルクで世界初演されました。編集長エマ・マニングがリポートします。

爽快で、タチアナ・ミツェワ、ニコライ・アルジャエフ、アンドレイ・ラブシャノフのトリオは澁刺としておおいに盛り上がった。ただし、湖の前で踊るという設定や、続く幻影の場でのオーロラ姫のヴァリエーションのポール・ド・ブラが、ジークフリートとの出会いでのオデットの怯えの表現に似ていたのには、違和感を覚えた。

フロレスタン国王夫妻(マラート・シェミウノフとオリガ・セミョーノフ)の絢爛たる大広間では、マリア・ドミトリエンコのサファイア、ワレーリア・ザパスニコワのアメジスト、アンドレイ・ヤフニュークをパートナーとするオクサーナ・ボンダレワ(三人中もっとも技術が強く、盤石のフェットテを見せた)の金と続く「宝石の踊り」や、おとぎ話の六組の主人公が登場する。後者で実際に踊るのは三組だが、もっとも印象的だったのはマリーナ・ニコラエフとニキータ・クリギンの猫だ。いさかいをしながらも官能的で、気まぐれな戯れや役作りに説得力があった。「青い鳥のパ・ド・ドゥ」は、振付に手を加えすぎなければもっと見応えがあっただろう。サビーナ・ヤパーロワは、プロローグの妖精のヴァリエーションでも印象的だったが、ここでのソロが適切だったとは思えない。ニコライ・コリパエフは力不足でブリゼ=ボレも不安定だったが、複雑なリフトでは二人の相性の良さがうかがえた。エカテリーナ・ホメンコの赤頭巾は、セルゲイ・ストレルコフの狼を心底怖がっているように見えた。

主役の二人は個々の力量は高いものの、パートナーシップが今ひとつ。イーナ・ペレンは、細身で少年っぽいレオニード・サラファーノフに対し、長身で落ち着きすぎているように見えた。彼女のオーロラ姫は洗練され賢いが、あどけない好奇心は感じさせない。両脚を胴の下に折り込んだ子猫のような跳躍などを見ても、この役にあまり向いていないのではと感じられた。ゆるぎないバランスや完璧に両脚をスプリットしたジュテなど技術は万全だが、私たちは彼女への恋に落ちなかったのだ。サラファーノフのデジレ王子に対しても同じで、打つぱの正確さや跳躍の軽さはお手本のようで、第三幕のヴァリエーションもダイナミックだったが、劇的な解釈の点では魅了されなかった。

アンジェリーナ・アトラジックの美術は、じつに魅惑的だった。湖をのぞけばどの場面も装置はシンプルかつ優雅で、衣裳は美しいだけでなくダンサーの動きを明確に見せる点がすぐれている。妖精たちのチュチュは絶妙で、宮廷人たちはカーテン生地のような月並みなベルベットをあまり使わず、表情を消してしまう大仰なかつらもなく、とても洗練されていた。

それにしても、クレジットから外されたプティパがこの舞台を見たら、何と感じるだろう。あえて想像をめぐらせてみ

デュアトはこれまで多くのダンス作品を創造してきたが、主にコンテンポラリーに特化してきた振付家だ。その彼が2011年1月にペテルブルグのミハイロフスキー・バレエの芸術監督に就任したことは、舞踊界をおおいに驚かせたものだ。そして今回は、古典バレエの中でも神聖なる名作とされる『眠れる森の美女』が百二十年前に初演されたこの街で新版を発表し、またも人々をあっと言わせた。

2011年12月16日の初日は、賛否両論を呼んだ。なぜ？古典への敬愛を公言するタイプではないデュアトが、根本的に名作を変えてしまったから？そうではない。たとえばマッツ・エックの版は伝統から過激に逸脱しているが、デュアトのものは妖精たちがポワントを履き、プティパへのオマージュのように原振付をなぞり、古典の再生の域を出ないのだ。ローズ・アダージョでは四人の求婚者の扱いが巧みで新味もあったが、最後はやはり手に汗握るオーロラ姫のバランス技。グラン・パ・ド・ドゥの始まりもデジレ王子と向き合ったオーロラ姫のデヴロッパ・ドゥヴァンであるなど、多少の変化はあったものの(カンブレの代わりにプロムナード等)、定型を踏襲した印象が強い。その一方でフィッシュ・ダイヴを装飾的なランジに変えたため、独特の高揚感が殺がれてしまった。

そもそも『眠れる森の美女』では、改定者が手を加えつつ、プティパの原振付に敬意を払うものだ。だがこのバレエ団の姿勢は正反対で、振付家としてクレジットされているのはデュアトのみ。プログラムのインタビューで彼は、当初は別のバレエを考えていたのだが、劇場幹部の要望でこの壮麗な作品になったことを告白している。

デュアトの手腕がもっとも大胆に発揮されたのは、狩りの場面だ。そもそも決定的な演出がなく自由度の高い部分だが、オープニングからの流れがじつに

